

## 霊的賜物を用いる 聖霊を受ける

今日のメッセージのタイトルは、「聖霊を受ける」です。これは、新約聖書全体において、まさに中心的なテーマです。すべてのクリスチャンが聖霊を受け取ることを期待されているので、クリスチャンにとって極めて重要なテーマです。残念ながら、特に福音派、ペンテコステ派、カルスマ派の教会の中には、聖霊を受けるという意味について多くの混乱と誤解があります。例えば、バプテスト派は、「私は新生した時に聖霊を受けました。もう受けるべきものは何にもありません。」と言うでしょう。ペンテコステ派は、「いいえ、あなたは新生したときに聖霊を受けませんでした。聖霊のバプテスマを受けて異言で話すまで、聖霊を受けることはありません。」と言うでしょう。そして、互いに少し怒りを覚えやすいのです。

誠実なクリスチャンたちが聖書の基本で意見が食い違うほとんどの場合、彼らが言う真理は、部分的には正しく、部分的には誤りです。今日、みなさんのために、この混乱をほぐすことができると信じます。その問題は、実は、新約聖書が聖霊を受けることにおいて、2通りの方法で語られているところにあります。その2通りを見分けるなら、もはや混乱は起こりません。私は、その2通りの方法を定義するために、新約聖書から2つの歴史的状況を用いて、それらを説明し、違いを示したいと思います。

クリスチャン教会に起こった、非常に歴史的に重要な2つの日曜日についてお話ししたいと思います。一つ目を、復活の日曜日と呼びましょう。二つ目は、その7週間後の、ペンテコステの日曜日です。その2つの日曜日に、信者たちは聖霊を受ける経験をしました。しかし、それらは別のものでした。それぞれの経験の様子をよく見ると、この人格なる聖霊との関係を理解することができます。私が聖霊を受けたとしたら、それ以上に私が受けるべきものが何かあるのか、また、聖霊を受け取る時に何が関与しているのでしょうか。

そのために、聖書を読みましょう。まず、イエスが弟子たちに最初に現れた復活の日曜日について書かれているヨハネ20章を見ましょう。ヨハネ 20:19-22 です。

「その日、すなわち週の初めの日の夕方のことであった。」

ご存知の通り、週の初めの日とは、日曜日のことです。安息日は、週の7日目で、日曜日は新しい週の始めです。ヘブル語では、*yom reshon*、最初の日と呼ばれています。実際、ヘブル語は、私たち以上に週の日呼び方についてさらに聖書に忠実です。残念なことに、英語やほとんどのヨーロッパ系言語での週の呼び方は、異教の神々から付けられています。たとえば、水曜日の Wednesday は、ウオーデインという神話の神です。木曜日の Thursday は、トールという神話の神です。日曜日は太陽の日、お分かりですね。週の日を定義する方法が非常に異教的であることは、残念な事実です。しかし、ヘブル語では、第一日、第二日、第三日、第四日、第五日、第六日です。そして、第七日は？ *Shabbat*、安息日で、日曜日は *yom reshon* です。イスラエルに住んだら、一週間で一番忙しいのは日曜日で、すべてが始まる日です。安息日に休み、人々は週の最初の日に動き始めます。そして、イスラエルの信者の集会のほとんどは、日曜日が仕事の日なので、土曜日に礼拝を持っています。お分かりでしょうか。ちょっと脇道にそれ

てしまいましたね。

19節に戻りましょう。

「…すなわち週の初めの日の夕方のであった。弟子たちがいた所では、ユダヤ人を恐れて戸がしめてあったが、イエスが来られ、彼らの中に立って言われた。『平安があなたがたにあるように。』こう言ってイエスは、その手とわき腹を彼らに示された。」

イエスはなぜ、そのようにしたのでしょうか。彼らが見た、十字架で刺された同じからだを今見ているということ、彼らに納得させるためです。栄光あるからだに変えられましたが、なお同じからだです。

「弟子たちは、主を見て喜んだ。イエスはもう一度、彼らに言われた。『平安があなたがたにあるように。父がわたしを遣わしたように、わたしもあなたがたを遣わします。』そして、こう言われると、彼らに息を吹きかけて言われた。『聖霊を受けなさい。』」

今読んだ、最後の節についてお話したいと思います。「息を吹きかける」と訳されている単語は、フルート奏者が音を出すためにフルートのマウスピースに吹き込むことに使われる単語です。イエスは遠くに立って、集団の彼らに息を吹きかけたのではなく、彼ら一人一人に息を吹き込みながら「聖霊を受けなさい。」と言われたと私は考えます。

ギリシャ語は、時制について非常に敏感です。命令形に一つ以上の時制があります。この特定の時制は、イエスがそのことばを発したときに受けよ、ということを目指しています。ですから、その時弟子たちは聖霊を受けたのです。それについての疑問はありません。

それが暗示しているものは何でしょうか。私の理解では、その瞬間に旧約聖書の救いから、新約聖書の救いへと移されたと思います。ご存知のように、旧約聖書で救われた人々がいまいました。彼らは、まだ捧げられていないけれども、預言と型を通して約束された、いけにえにある信仰によって救われました。ですから、彼らの信仰は、未完成のものを待ち望んでいたのです。しかし、新約聖書では、私たちは歴史的に成就された十字架のイエスのいけにえにある信仰によって救われています。イエスは死なれる時、「完了した。」と言われました。私たちは完了した働きを振り返るのです。

新約聖書の救いを体験するために、パウロは2つのことが必要であると、ローマ 10:9 で言っています。

「なぜなら、もしあなたの口でイエスを主と告白し、あなたの心で神はイエスを死者の中からよみがえらせてくださったと信じるなら、あなたは救われるからです。」

このように、新約聖書の救いには、2つの必要条件があります。イエスを主と告白することと、神がイエスを死者の中からよみがえらせてくださったことを信じることです。弟子たちは、すでにイエスを主と告白していましたが、これは、神がイエスを死者の中からよみがえらせてくださったことを信じる最初の瞬間です。弟子たちは、旧約聖書の摂理から出て、新約聖書の摂理に入ったのです。それは型です。よみがえられたキリストと顔と顔を合わせることによって、

またイエスから吹き込まれた霊を受けることによって、それは起こりました。

さて、霊というギリシャ語の単語 *pneuma* は、風や息の単語でもあります。ですから、イエスが弟子たちに息を吹きかけて「聖霊を受けなさい。」と言ったとき、聖なる息を受けなさいと言っていたのです。それは、人と人の直接の作用です。彼らは新しい被造物の一部となりました。神が、生きたたましいである人を創るために、園で土のからだを形作られた時の最初の創造を思い返してみましよう。神は何をされましたか。神は人の中にいのちの息を吹き込み、人は生きものとなり、生きたたましいとなりました。新しい被造物は、同じ型に従っていますが、園にいる主ではなく、死をたどり、墓から出て、弟子たちに息を吹き込んだ、完全な勝利者なる、よみがえられた救い主です。それは、罪とサタン、そして死に打ち勝った勝利あるいのちです。よみがえられた救い主の息を吹き込まれた者です。

私は個人的に、それは、新しい救いの中に入ったすべての人のための型だと信じます。イエスに出会わずに救われることはあり得ないと思います。私が言っているのは、弟子たちのように目に見えるかたちでイエスに出会うのではなく、イエス以外に、イエス・キリストの真の教会に入るいかなる道もないと考えるのです。イエスは言われました。「わたしは門です。だれでも、わたしを通してはいるなら、救われます。」ですから、これは、すべての人のために新しい誕生の型です。私たちはイエスに出会わなければなりません。ただ教理を信じたり、教会に加わるだけではなく、よみがえられたキリストと個人的に出会い、聖霊なる神の息をイエスから受け、新しい被造物となるのです。私たちは、死からいのちへと移ります。

私がイエスと顔と顔を合わせて出会ったのは、目に見えるものではありませんでしたが、第二次大戦のイギリス軍のバラック小屋でした。私は、いかなる救いの教理の知識もありませんでした。私は生まれ変わったとすることができず、救われるために何をしなければならぬかも知りませんでした。信じてください。私は救われたのです。後になって、教理を知りましたが、私はもうイエスには出会っていたのです。みなさん、イエスに出会って、なお同じであり続けることはできません。あなたは教会に集い、変わらないままではいることはできます。頭であらゆることを信じて変わらないままではいることはできます。しかし、よみがえられたキリストに出会うなら、変わります。そして、それは永久のもです。私のその45年前は、試みの時でした。私には教理など持ち合わせていませんでした。実に、弟子たちもそうでした。突然の聖書的啓示があったわけではなく、彼らはイエスに会い、聖霊を受けたのです。聖なる、永遠のよみがえりのいのちです。朽ちないいのち、圧倒的な勝利のいのちです。ヨハネは、のちにそのことについて、「神によって生まれた者はみな、世に勝つからです。」と言っています。あなたのうちにあるいのちは負けることはありません。それは、圧倒的な勝利のいのちです。すべての悪に打ち勝つのです。最高のことです。何と素晴らしいことでしょう。

さて、これについて私なりのアウトラインを読みます。この時点で、弟子たちは聖なる永遠の復活のいのちを受け取りました。しかし、彼らはまだ、働きのための方向性に欠けていました。その後幾日も経たないうちに、ペテロはが再び漁に行きました。彼はなお、神が彼に持つておられる計画を知らなかったのです。そして、彼らはエルサレムの町で何のインパクトも与えませんでした。エルサレムは同じ状況でした。彼らは宮で毎日神を賛美し祝福していましたが、エルサレムには何の変化もありませんでした。そして、イエスが彼らの経験の後、復活から昇天までの間に彼らに言われたことは、「まだ、受け取るべきものがある。すべてを得たと思っってはならない。」です。「私は救われた時にすべてを得た。」と言う人たちに会うと、私はこう言います。「あなたがすべてを得たのなら、見せてください。どこにありますか。」それは表わされなければならないのです。

弟子たちが新しいのちを通して受けたものは素晴らしいものでしたが、それ以上にさらに受けるものがあることをイエスが非常に明確にされた箇所を2か所読みたいと思います。ルカ 24:48-49 です。これは、イエスが昇天される前に短く語られた言葉であることを覚えていてください。イエスの復活からおよそ40日後のことです。

「あなたがたは、これらのことの証人です。さあ、わたしは、わたしの父の約束してくださったものをあなたがたに送ります。あなたがたは、いと高き所から力を着せられるまでは、都にとどまっていなさい。」

イエスは、まだ来るべきものがあると言ったのです。父の約束をあなたがたはまだ受け取っていない。しかし、あなたがたがその約束のものを受けると、私の証人となる力を受けるのですと。

もう一箇所、使徒1:4-5です。

「彼らといっしょにいるとき、イエスは彼らにこう命じられた。『エルサレムを離れないで、わたしから聞いた父の約束を待ちなさい。』」

それから、イエスは父の約束が何であるかを説明します。

「ヨハネは水でバプテスマを授けたが、もう間もなく、あなたがたは聖霊のバプテスマを受けるからです。」

それが父の約束です、ある人は、聖書の中に神の約束が7,000 あると推定しました。しかし、「あなたがたは聖霊のバプテスマを受ける。」これこそが、父の子どもたちへの約束です。

そして、イエスは 8 節でその目的を説明します。

「しかし、聖霊があなたがたの上に臨まれるとき、あなたがたは力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリアの全土、および地の果てにまで、わたしの証人となります。」

これが、聖霊でバプテスマを受ける約束です。その目的は、証人となる力を受けるためです。それはまだ起こっていませんでした。これは、彼らが新しいのちで聖霊を受けた、復活の日曜日の体験のおよそ 40 日後です。しかし、イエスは言われました。「私の証人となる力を着る、もう一つの体験をするだろう。」そして、あらゆる背景を持ったほとんどの聖書注解者が、その 2 つ目の約束は、ペンテコステの日に成就したことに同意しています。

ですから、今、使徒の働き 2 章を開きましょう。その約束の成就が表現されている箇所が数ヶ所あります。最初に、使徒 2:1-4 を読みます。今、ペンテコステの日曜日についてお話ししています。

「五旬節の日になって、みなが一つ所に集まっていた。すると突然、天から、激しい風が吹いて来るような響きが起こり、彼らのいた家全体に響き渡った。また、炎のような分かれた舌が現れて、ひとりひとりの上にとどまった。

すると、みなが聖霊に満たされ、御霊が話させてくださるとおりに、他国のことばで話しました。」

さて、これは約束の成就です。この体験の 3 つの連続する段階についてお話します。まず、聖霊が激しい風のように下り、彼らが座っていた家全体に満ちました。言語学的に言うと、バプテスマという単語の意味は、つける、浸すであることを覚えていてください。これは、確かな言語学的事実です。ですから、すべてのバプテスマは、浸されなければなりません。水のバプテスマは水に浸されることです。しかし、聖霊のバプテスマは、聖霊に浸されることです。水のバプテスマでは、あなたは水に入り、水から出てきます。しかし、聖霊のバプテスマでは、聖霊があなたの上から下ってきて、上からあなたを浸すのです。スイミングプールに入っていくことと、ナイアガラの滝の下を歩くことを比較することができますでしょう。それらはどちらも浸しますが、滝の方は、上からの浸しです。

私が初めてナイアガラの滝を見たとき、その下では瞬間でびしょ濡れになってしまうと独り言を言いました。しかし、それは、その中へ入って行く浸しではなく、上から落ちてくるものによる浸しです。そして、その時点で、屋上の間にいた弟子たちひとり一人が、上から下って来た聖霊に浸されたのです。彼らのいた家全体に響き渡ったと言っています。ですから、彼らは完全に聖霊に浸されたのです。それが第一段階です。

第二段階。彼らはみな聖霊に満たされたとあります。ひとり一人が満たされた段階で、聖霊を受けました。

そして第三段階は、「あふれる」と呼びましょう。彼らは、聖霊が話させてくださるとおりに、新しい言葉で話しました。マタイ 12:34 でイエスは言っています。

「心に満ちていることを口が話すのです。」

言い換えれば、あなたの心に満ちていることがあふれ、あふれたことがあなたの口を通して語られるようになるということです。これは聖書的です。彼らが聖霊で満たされ、それ以上入らなくなった時、あふれたのです。彼らは、聖霊が話させてくださるとおりに話しました。それが、その体験の三段階です。上からの浸し、満たし、あふれるです。

さて、理論上では、あなたはいつでも止めることができます。彼らは浸されても、満たされないでいることはできました。あるいは、彼らは浸され、満たされても、あふれないでいることはできました。しかし、私の疑問は、なぜ最善のもの以下を受け入れるのか、です。私は、カトリック教会でもよく説教をしますが、私はその時、常に新約聖書の 2 人の大好きな人物を思い浮かべるように言います。マリヤとペテロです。彼らはどちらもその方法で受け取りました。「彼らがそのように受けたのなら、なぜあなたは他の方法で受けるべきでしょうか。」と私は彼らに言います。そして、何百人ものカトリック教徒が数分で聖霊を受けるのを私は見てきました。

では、この 2 つ目の体験についての私の注解を紹介します。「弟子たちは今や、明らかな超自然的な力を受けた。」その言葉を強調しましょう。それは明らかでした。すべての人が起こっていることを知りました。それは、単に内側の体験ではありませんでした。超自然的で力がありました。彼らは以前には持っていなかった、あかす大胆さを受けました。彼らは生まれ変わってはいたのですが、あかす大胆さはありませんでした。彼らは聖書に関する洞察を受けました。その数分後、ペテロは虎の巻や覚え書きなどまったくなしで、立ち上がって言いました。「これは、預言者ヨ

エルによって語られたことです。」ペテロは、一時間前にそれを言うことはできませんでしたし、何の洞察もなかったでしょう。ただちに、聖書が新しい方法で彼らに生きたものとなりました。3 つ目に、彼らは使徒的使命に解放されました。ペテロはペンテコステの後、一度も漁に行くことについて語りませんでした。そしてついに、エルサレムはインパクトを受けました。数時間以内に、エルサレムのすべての人が、普通ではないことが起こったことを知ったのです。

彼らが新生したことは、その時広まりませんでした。しかし、聖霊のバプテスマを受けたときは広まったのです。体験からのことは、長い間隠されたままにならないことをみなさんをご存知ですか。それは何らかの方法で物事をかき立てることになることにあなたは気づいていますか。ある人が私の友人に、バプテスマの証拠は何かと尋ねました。彼は、混乱だと答えました。

では、ここまでをまとめましょう。2 つの日曜日を並列させたいと思います。一方は復活の日曜日、もう一方はペンテコステの日曜日です。そして、3 つの違いがあります。復活の日曜日は、よみがえられたキリストです。ペンテコステの日曜日は、天に上られた栄光のキリストです。復活の日曜日は吹き込まれた霊で、ペンテコステの日曜日は、流れ出る霊です。復活の日曜日の結果は、いのちで、ペンテコステの日曜日の結果は、力です。互いに矛盾しません。どちらかという問題ではなく、両方とも神の民すべてのための神の目的です。あなたが復活の日曜日を経験したという事実が、ペンテコステの日曜日の体験は必要ないという意味ではありません。お分かりでしょうか。ですから、「私は救われた時に聖霊を受けた。」というバプテスト派は正しいのです。しかし、実を言うと、私たちのほとんどがすべてを得たわけではありません。もっと多くの得るべきものがあると思います。いいでしょうか。私にとって、それら2 つの日曜日を理解した時、聖霊を受けた人、聖霊を受けていない人の問題はもはやありませんでした。生まれ変わりを通して、すべての新生した神の子どもは、いのちとして聖霊を受けました。しかし、新生した神の子どもすべては、新約聖書によると、聖霊のバプテスマを受け、あかしするために超自然的な力を受ける必要があります。それらは矛盾せず、完全に合致するものです。

強調したいポイントに来ました。「聖霊を受けなさい！」です。それは提案ではなく、命令であったことを指摘したいと思います。イエスは通常、提案はせず、命令を与えました。これは、非常に重要なことです。使徒の働き 2 章以降、新約聖書では、「聖霊を受けなさい。」というフレーズは、常にペンテコステの日曜日の体験に引用されています。これは、単純に新約聖書の語法です。それは、他を除外するというわけではなく、使徒の働き 2 章以降、聖霊を受けることについて書いている箇所はどこでも、引用されているペンテコステの日曜日の体験です。

では、さっと 3 つの例を見てみましょう。使徒の働き 8 章で、ピリポがサマリヤに行った後、そこでキリストを人々に宣べ伝えたところでは、8:12 です。

「しかし、ピリポが神の国とイエス・キリストの御名について宣べるのを信じた彼らは、男も女もバプテスマを受けた。」

イエスは、「全世界に出て行き、すべての造られた者に、福音を宣べ伝えなさい。信じてバプテスマを受ける者は、救われます。」と言われました。ですから、私たちは、そのサマリヤ人たちが救われたと認めなければなりません。彼らは、信じ、バプテスマを受けました。しかし、彼らの体験は完全ではありませんでした。また、彼らはピリポからそれ以上のものを得ませんでした 14、15 節を読みましょう。

「さて、エルサレムにいる使徒たちは、サマリヤの人々が神のこぼを受け入れたと聞いて、ペテロとヨハネを彼らのところへ遣わした。ふたりは下って行って、人々が聖霊を受けるように祈った。

人々は救われましたが、使徒たちは、聖霊を受けるように祈りました。復活の日曜日の体験ではなく、ペンテコステの日曜日の体験のためです。

「聖霊がまだだれにも下っておられなかったからである。」

:

聖霊のバプテスマについて語られている箇所はすべて、上から下って来る聖霊を意味することに注目してください。聖霊はまだ誰にも下っておらず、主イエスの御名によってバプテスマを受けていただけでした。彼らは救われていましたが、聖霊はまだ彼らの上を下っていませんでした。

「ふたりが彼らの上に手を置くと、彼らは聖霊を受けた。」

さて、救われ、バプテスマを受けた信者がなお聖霊を受ける必要があると、これまでに 3 度も語られています。復活の日曜日の体験ではなく、ペンテコステの日曜日の体験です。

そして、使徒 10:47 のコルネリオの家での出来事です。ペテロがそこへ行き、イエスのあかしをしたことを覚えていらっしゃるでしょう。そして、聖霊が下りました。ペテロの説教を遮って、すべての異邦人が異言で話し始めました。そしてこれは、ペテロによる解説です。

「この人たちは、私たちと同じように、聖霊を受けたのですから、いったいだれが、水をさし止めて、この人たちにバプテスマを受けさせないようにすることができでしょうか。」

ペテロは、彼らが異言で語るのを聞いたという事実と言及しました。ですから、彼らはペンテコステの日曜日の方法で聖霊を受けたのです。

そして、使徒 19:2 で、パウロが初めてエペソに来たとき、幾人かの弟子に会いました。しかし、パウロは、何らかの体験が欠けていると感じ、このように聞きました。

「『信じたとき、聖霊を受けましたか』と尋ねると、彼らは、『いいえ、聖霊の与えられることは、聞きもしませんでした』と答えた。」

もし、信じたときにすべての人が自動的に聖霊を受けたとしたら、この質問は意味がありません。ですから、これは、新生することについて言っているのではなく、ペンテコステの日曜日の体験を受けることについて言っているのです。

では、非常に具体的なことに入っていきます。みなさんに、どのように受けるかをお伝えしたいと思います。疑い

なく、みなさんの多くが受けたでしょう。しかし、全員が受けてはいないと思います。これは、単にまだ受けていない方のためにまず言っているのではありますが、それだけではなく、聖霊の受け方を人々に教えるためにもお話しています。それが確かに働くことをお伝えしたいのです。経験によってそれが証明されました。妻と私は、2 年ほど前チームとともに、ザンビアの辺境地でおよそ 7,000 人のアフリカ人の集会に参加していました。私は、アフリカでは不可欠な、十字架の働き、のろいからの解放、悪霊からの解放を、非常に注意深く体系的に教えました。そして4日目、私はみなさんに語ってきたのと同様に、聖霊について彼らに教えました。それから、こう言いました。「では、どのように受けるかについてお教えしましょう。」それを受けるといふ時点に来たとき、私は、「今からは、あなた自身の言葉で、語ってほしくありません。ただ、新しい言葉で語ってください。」1分ほどの静けさがあり、その後一人の男性が新しい言葉で話初め、その 30 秒後には、少なくとも 4,000 人が一斉に聖霊のバプテスマを受けました。

それと同じ規模ではありませんが、私は多くの場所でまったく同じことを見てきました。以前、私はオーストリアでカトリック教会に招かれました。カトリックの神父が私を呼び、人々にバプテスマと異言について教えるようにと私を招きました。カトリックの教会で、あなたのそばに神父がいると、迷うことはできません。つまり、あなたはまるで預言者エリヤと同じようになります。ですから、私は今語っているのと同じことを彼らに語りました。その教会には、だいたい 900 人ほどがいました。私が、「みなさんの中で受けた人はどれぐらいいますか。」と聞くと、少なくとも 500 人ほどが前に進み出ました。私は簡単な手順を与え、彼らは席に戻り、異言で話し始めました。そして、異言で歌い始めたのです。美しい大理石の建物は、これまでに聞いたことがないと思われる音色を聞きました。何と素晴らしい光景でしょう。新しく聖霊のバプテスマを受けた 500 人が主をほめたたえ、異言で賛美しているのです。このように、いったんカトリックを解き放つと、それを止めるものは何ともありません。彼らがどこまでたどり着くかは全くわかりません。これは「正しく」、「教理的な響き」でしょうか。カトリックの教会に権威ある方が来られるなら、そう言うでしょう。それはまた、問題を引き起こしますが、多くの議論があります。

もう一つ、とても重要なことをお話したいと思います。聖霊のバプテスマの明確なしるしは、異言で話すことです。ある人は、それを証拠だと呼びます。実際、私は異言で話すことを、バプテスマの最高潮と呼びたいです。それは浸されるのではなく、ふさぐことでもなく、流れ出るものです。さて、その流れ出るのを抑えることはできます。多くの人が聖霊に満たされますが、一度も流し出したことがありません。なぜ、それをとどめるのでしょうか。パウロは、エペソ人への手紙と、コリント人への手紙の両方で、聖霊のしるしを受けることについて語っています。しるしとは、パッケージなど、ある物につけられ、目立つようにするものです。それは隠れておらず、他の物と区別するものとなります。それが聖霊のしるしです。聖霊を受けた人々を他の人々と区別します。あなたは、いったん聖霊を受けたら、しるしをつけられた人となります。人によって、また、サタンによってしるされることには注意してください。

さて、新約聖書で見るしるしは、これは私の個人的な視点ですが、他の言葉で話すことです。異言は、使徒たちが受けたしるしです。彼らは 10 日ほど待ちましたが、いったん異言で話すと、二度と待つことはありませんでした。そして、その後は誰も、バプテスマのために待つことはありませんでした。何週間も、何か月も、何年も待たなければならないという考えは、非聖書的です。ペンテコステの後には、もはや待たなかったのです。ペンテコステ教会で一人の男性が私に、「私は 25 年もバプテスマを待っているんです。」と言いました。私は、「あなたの問題は、神にすべてをしてほしいと思っていることです。」と答えました。彼は、「確かに、私は神にすべてをしてほしいのです。」と言ったので、「あなたは決してそれを受けることができません。神は、ご自身の役割をされ、あなたはあなたの役割をしなければなりません。」



ん。」と私は言いました。彼が異言で話さなくても、恵みに達したと簡単に信じることができます。待つことはペンテコステの後は聖書的ではありません。

異言は、使徒たちが受けたしるしで、他の人が認識できるしるしでした。顕著な例は、コルネリオの家の人たちです。ペテロは、異邦人がクリスチャンになれたということすら信じませんでした。彼らが異言で話すのを聞いたペテロは、「この人たちは、私たちと同じように、聖霊を受けたのです…」と言いました。ペテロは、実を待つことはなく、彼らが教理を知っているかを調べることもなく、彼らは受けたのだと言ったのです。彼らは一度も他のしるしを求めませんでした。そして、新約聖書は他のしるしを提供していません。

どのように受けるかについてに戻りましょう。まず、ルカ 11:11-13 を見ましょう。これは励ましのことばです。イエスはこのように言っています。

「あなたがたの中で、子どもが魚を下さいと言うときに、魚の代わりに蛇を与えるような父親が、いったいいるでしょうか。卵を下さいと言うのに、だれが、さそりを与えるでしょう。」

イエスが言っている本質は、父親は良いものを求める子どもには、決して悪いものは与えないということです。そして、それを私たちの天の父にあてはめています。

「してみると、あなたがたも、悪い者ではあっても、自分の子どもには良い物を与えることを知っているのです。とすれば、なおのこと、天の父が、求める人たちに、どうして聖霊を下さらないことがありましょう。」

私は、クリスチャンが聖霊を求めることは、聖書的でないと言うのを耳にしたことがあります。しかし、イエスは、あなたが新生した神の子どもであるなら、聖霊を求めるのは正しいと言っています。そしてイエスは、求める責任を、実に私たちにおかれたのです。あなたが新生した神の子どもであるなら、あなたは、唯一の道である御子イエスを通して神のもとへ来て、良い聖書的なものを求めれば、悪いものを受け取ることは決してありません。それはあなたの保証です。しかし、求める責任はあなたにあります。

そして、受けるための実際的なステップです。ヨハネ 7:37-39 を読みましょう。

「さて、祭りの終わりの大いなる日に、イエスは立って、大声で言われた。『だれでも渇いているなら、わたしのもとに来て飲みなさい。わたしを信じる者は、聖書が言っているとおり、その人の心の奥底から…』」

しかし、それは丁寧すぎます。原語は、『腹から』となっています。私は、聖公会の教会で少年として育ちました。教会で腹というような下品なことばについて語るその箇所を読むときに、私はいつも少しショックを受けたことを覚えています。問題は、それがどこから来るかです。私たちの内にある部分で、興味深いことに、ギリシャ語の意味は、「くぼんだ場所」です。天の丸天井(アーチ)のために用いられるのと同じ語源です。ですから、信者のからだにある部分が聖霊のために備えられているのです。ご存知でしたか。霊的になり過ぎないでください。これは、聖霊をあなたのからだの中にそのまま入らせるのです。お腹からです。私が誰もいない軍のバラック小屋でバプテスマを受けたとき、お腹に

それを感じました。次に何が起こるのだろうと思いました。そして神に叫んで言いました。「他の言葉で話すことをあなたが願っておられるなら、私は覚悟ができています。」私は野心的ではありませんでした。それを言った瞬間、その炎がお腹から胸、のどに上ってきました。次に起こったことは、何が堅いゴムのかけらのようなものが私の口の奥で跳ねていました。私は、それが自分の舌であると気づきました。私が口を開けると、その奇妙な音が出てきました。しかし、それがお腹から始まったことは、鮮明でした。イエスは、このように言われました。

「その人の心の奥底から、生ける水の川が流れ出るようになる。」

それは、驚くべき変化ではありませんか。自分でほとんど何も持たない飢え渴きをもった人が、聖霊を受けて、川の流れとなるのです。普通の川ではなく、生ける水の川です。何という変化でしょう。

福音書の著者による説明があります。

「これは、イエスを信じる者が後になってから受ける御霊のことを言われたのである。」

いいですか。信者は聖霊を受けるのです。

「イエスはまだ栄光を受けておられなかったので、御霊はまだ注がれていなかったからである。」

このように、イエスは栄光を受けるまで、聖霊が与えられませんでした。イエスはいつ栄光を受けられましたか。天に上り、父の右に座した時です。

使徒 2 章に戻ると、ペテロがペンテコステの日に起こったことをまとめているところがありますので、ちょっと見てみましょう。使徒 2:32-33 です。

「神はこのイエスをよみがえらせました。私たちはみな、そのことの証人です。ですから、神の右に上げられたイエスが、御父から約束された聖霊を受けて、今あなたがたが見聞きしているこの聖霊をお注ぎになったのです。」

つまり、父から聖霊の賜物を受けた栄光のキリストは、それを弟子たちに注ぎ、その結果、それは見聞きできるものとなりました。単なる目に見えない内側の経験ではなく、からだや感覚にインパクトを与える経験でした。

ヨハネ 7 章、どのように受けるかに戻りましょう。4 つの簡単なステップを紹介します。実は、それは複雑ではなく、簡単なのです。神学的な頭を持った、複雑さを求める人たちは、そのことを信じて行動に移すことが、あまりにもシンプルだと思ってしまうことがあります。どのようなステップでしょうか。一つ目、渴くことです。誰でも渴いているならです。それが資格です。聖書を引用できなくても、十分の一献金の支払いの記録がなくても構いませんが、渴いていなければなりません。それが必須条件です。人々が私のところにやってきた時、私は、「このことを忘れないでください。バプテスマは、渴いている人のため、解放は必死に求める人のためなのです。」と言います。人が解放を求めて私のところに来たとき、私はこのように言うときがあります。「いいですか、あなたを助けることはできません。あなたは、必死ではないからです。あなたが必死の時にまた来てください。」

しかし、私たちは今、解放についてではなく、聖霊を受けることについて話しています。それは、渴いている人々のためのもので、渴いていない限り、それは神学者のためのもではありません。それは、超霊的な人々のためのもではなく、渴いている人々のためのもです。ですから、あなたが自分は不適格だ、弱い、神さまが願っておられるものを何も生み出すことができないと感じているなら、あなたには資格があります。それがあなたの資格となるのです。あなたが今まで以上に神を必要としているなら、それは乾いていると言うことです。神が求めるのは、そのことだけです。

二つ目、イエスは言われました。「私のもとへ来なさい。」デビッド・ドゥプレスという人は、聖霊のバプテスマを受ける方はただお一人で、その方の名は、イエスである、とはっきりと言いました。ですから、あなたが聖霊のバプテスマを受けたいのなら、バプテスマを受ける人のもとへ行かなければなりません。それを得る場所は他にはありません。人間が聖霊を受けるわけではありません。人間は水のバプテスマを授けますが、イエスだけが聖霊を授けるのです。幸いなことに、イエスは「わたしのところに来る者を、わたしは決して捨てません。」と仰ってくださいました。ですから、あなたがイエスのもとへ来るなら、イエスはあなたを受け入れてくださることを私たちは知っているのです。

次にしなければならないことは何でしょうか。これが問題です。ここでとても具体的でシンプルになるので、宗教的な人々にとっては問題となるのです。三つ目です。飲まなければなりません。あなたの意志に反して、飲むことを強制できる人はいません。それは、あなたの意志であり、あなたがしなければならない非常にシンプルなことです。私が人々に言うことは、誰一人口を閉じたままで聖霊のバプテスマを受けた人はいないということです。それは絶対に起こりません。あなたは、口を開けるように、あなた自身を開いて神の霊を飲み始めます。目に見える水を飲むのではなく、イエスがあなたの上に注いでいる、目に見えない神の霊を飲むのです。なぜ、イエスはあなたに注がれるのでしょうか。あなたが求めたからです。それほどシンプルなものです。イエスは、言われました。「わたしの名によって何かをわたしに求めるなら、わたしはそれをしましょう。」ですから、あなたがイエスのもとへ行くなれば、イエスはあなたを迎えてくださいます。

さて、飲むために一番簡単な方法は、吸い込み始めることです。私は、一度に何百人もの人がそれをするのを見てきましたが、受けるのに失敗した人はいません。立ったまま、「ウーウー」と言っている人は何も得ませんでした。そこが問題であることをお伝えしたいのです。自意識が強いのです。「でも、私は今まで、教会でそうするようと言われてたことはない。」と言うかもしれません。おそらくそれは違うでしょう。

もう一つのステップがあります。あなたは飲みました。今、それを流し出さなければなりません。「その人の腹から生ける水の川が流れ出るようになる。」しかし、これは、聖霊のことを言っています。ですから、最後の四つ目の段階は、流し出すことです。それは、どのように起こるのでしょうか。口で語ることを通してです。「心に満ちていることを口が話すのです。」それは、超自然的な内側の満ちたので、超自然的に流れ出すのです。あなたは、自分の知っている言葉を話すのではなく、聖霊があなたに与えてくださる、今までに聞いたことがなく、学んだことがなく、あなたが理解できない、また、決して理解することがないであろう言葉を話します。

それが正しいものだとして、どのように知ることができるでしょうか。その答えは、あなたが正しいものを求めたからです。神は、ルカ11:11-13で、良い物を求めて、悪い物を受けることはないと言われた保証を与えてくださっています。み

んなで一緒に言いましょう。「私は良いものを求めるなら、決して悪いものを受け取らない。」いいですね！ 私たちには確信が与えられています。

さて、サタンの 2 つの目的に移りましょう。今、みなさんの中で、聖霊のバプテスマを受けた人がどれくらいいるかと尋ねたら、9 割ぐらいの人が手を挙げるのではないかと思います。サタンの目的の一つ目、古い告発者は、あなたのすぐ横にいて、あなたが異言で話し始めると、「それは本物じゃない、自分でやっているだけだ。」と言います。何人ぐらいの人がその経験がありますか。ほぼ全員ですね。答えは何ですか。あなたは答える必要があります。その答えとは、「サタンよ、お前は正しい。私は自分でやっている。私は話しているが、聖霊がその言葉を与えておられるのだ。」です。使徒 2 章にこうあります。「御霊が話させてくださるとおりに、他国のことばで話した。」「聖霊が話すのではありません。聖霊は、彼らに言葉を与えました。彼らが語ったのです。ですから、先ほど言った。25 年も待っていた男性は、すべてを神にしてほしかったので、聖霊を受けることなく、亡くなってしまいました。神がすべてをなさるのではありません。あなたは自分の役割をし、神もご自身の役割をされます。しかし、神はあなたを無理に話させようとはしません。聖霊が私にあれこれをさせた、と言う人々がいます。私はそれを信じません。聖霊は、神の子どもに何かをさせることは決してありません。使徒ペテロは言いました。「聖霊が私に行くように命じた。」彼は、「聖霊が私を行かせた。」とは言わなかったのです。あなたには、自由意志があり、神は決してあなたの自由意志をくつがえすことはありません。なぜなら、神はそのように、あなたを造られたからです。あなたは決心して語るのです。また、あなたは口を閉じたまま話すことはできません。

私は、多くの人の手助けをしてきました。私はこのように言います。「いいですか、口を開け、舌を動かし、くちびるを動かしてください。はっきりと話してください。すべてのことばをはっきりと言ってください。あなたは、運転席にいます。あなたが決心するのです。あなたの意志がスイッチです。力はそこにありますが、あなただけがスイッチを押せるのです。」

いいですか、サタンへの返事は、「サタンよ、お前は正しい。私は自分でしている。私は自分で話し、聖霊が私に言葉を与えてくださっている。」です。

次のサタンの目的は、あなたはどのようにして、正しいものを受けたとわかるのか、です。とてもばかげているように聞こえます。しかし、あなたが知らないほとんどすべての言語は、奇妙に聞こえます。私は、自分がよく知らない世界の様々な地域の言語をたくさん聞いてきましたが、すべては私にとって奇妙です。知らない言語というのは奇妙なものです。しかし、どのようにして正しいものを受けたかどうかを知ることができるでしょうか。なぜなら、私たちは正しいものを求め、神は正しいものを求めるなら、決して間違っただけのものを受け取らないと保証されました。みなさん、その基本は、信仰です。神の元へ来る他の方法はありません。「神に近づく者は…神を求める者には報いてくださる方であることとを、信じなければならないのです。」

今、残っていることはただ一つ、受けることです。みなさんの中で、まだこのしるしを持っていない、聖霊のバプテスマを受けていない方がいるでしょう。受けたかもしれないけれど、流し出していないかもしれません。また、流し出してきたけれども、それが正しいかどうかわからず、それを続けていく信仰と勇気がないと言う人もいるかもしれません。あなたは、本当の解放を受けたことがないのです。もし、あなたが今、このメッセージが終わるまでに、完全な解放を願

うのでしたら、お手伝いしたいと思います。その場で立ってください。私が、あなたがイエスのもとに行って受けるための祈りを導きます。時間はかかりませんので、どうぞ今立ち上がってください。恥ずかしがらないでください。最善のために、神のところへ行くことは当たり前のことです。

自分が受けたかどうか、よくわからないという方もいるでしょう。少し言葉を話し、くちびるも動いたけれど、よくわからないという方、どうか、立ち上がってください。はっきりとした川となることができますのですから。私は人々に言います。「これは、水たまりではなく、川です。流れ続けるのです。」1974年に私は一度異言で話したことがあるなどと言わないでください。それは川ではなく。水たまりです。

また、それ以外の方も、立ち上がりたい方は、ぜひ立ち上がってください。5分ぐらいあれば十分です。

今から私が大きな声で区切りながら祈りますので、私の後について祈ってください。あなたは、私に対して祈るのではなく、バプテスマを授ける方、主イエス・キリストに祈るのです。あなたがイエスの元へ行く、渴いた人としての資格がある者として祈ります。あなたが最後のことば、「アーメン」と言ったら、祈るのをやめてください。そのあとは祈りをしてください。いいですか。あなたは何をしますのですか。飲み始めるのです。声を上げる必要はありません。ただ、静かに、神の霊を受け取ってください。あなた自身を主に集中させ、周りの事や人は忘れてください。そして、新しいことばを解放し始める信仰の時というものがあります。今、すでに準備できておられる方もいるでしょう。空気抵抗を破るのです。叫ぶ必要はありませんが、自分で聞こえるぐらいの大きさの声を出し、他の言葉で話していることが自分でわかるようにしてください。いいですか。アーメンと言ったら、もう、日本語や、英語、フィリピン語、スペイン語、中国語、韓国語などは、なしです。祈りましょう。

「主、イエス・キリストさま。私はあなたが神の子で、十字架で私の罪のために死に、死からよみがえられたことを信じます。赦しときよめを信じます。私を神の子として受け入れてくださったことを、信じます。あなたが受け入れてくださったので、私も自分を神の子として受け入れます。今、私の心に誰かに対して、何らかの怒りや赦せない思いがあるなら、それを捨て、神が私を赦してくださったように、私は他の人たちをすべて赦します。もし、私が今までに魔術に関わって来ていたら、それは罪ですから、イエスの御名によって、あなたに赦しを求め、今後サタンや魔術の力との一切のかかわりを断ちます。主イエスさま、今私は聖霊を授ける方である、あなたのもとに来ています。私のからだをあなたの聖霊の宮となるようにお捧げします。私の舌を、新しいことばであなたをほめたたえる、義の管(くだ)として、あなたにゆだねます。信仰によって、私はそのことを今受け取り、イエスさまの御名によって感謝します。アーメン。

さあ、飲み始めてください。息を吸い込んでください。そして話し始めてください。話すとき、ただ口を開けて、舌と唇を動かし、声を主に捧げてください。もう準備できている方も多いでしょう。唇としたが動いたら、声を主に捧げてください。聖霊が来られたら、恥ずかしがらないでください。ぜひ、お迎えしてください。ハレルヤ、主よ、感謝します。

では、一緒に神に異言で賛美しましょう。主、イエスさま、感謝します、感謝します。主よ、あなたをほめたたえます。あなたの栄光をほめたたえます。ハレルヤ、アーメン。

興奮するのは当然です。いいですか。しばらくの間、楽しんでください。アーメン、主イエスをほめたたえます。栄光

をあなたにお捧げします。イエス・キリストは主です！ アーメン。主は罪と、死に打ち勝ちました。主は死からよみがえられました！ イエスは、父の右の座に昇られました。天と地のすべての権威はイエスに与えられています。イエスの御名をほめたたえます。感謝します。ハレルヤ、主よ、感謝します。アーメン。